

ひとの CLOSE ＊ UP ちから



まつやま・あつし 昭和12年生まれ、日の出町在住。万田地区協議会副会長。長年の趣味は詩吟で、日本吟剣詩舞振興会の参事を務める。公子の詩はどれも好きで、一番好きな詩は「ばら」。

一般社団法人海達公子顕彰会
代表理事

松山厚志さん

「生まれ育った万田地区に
しかないことで地域を活性化
したいんです」一般社団法人
海達公子顕彰会の代表理事を
務める松山厚志さんは、顔を
ほころばせました。

海達公子は、大正期を生き
た北尋常小（現・万田小）出
身の詩人です。雑誌「赤い
鳥」に発表した詩を北原白秋
から絶賛され、全国に名をと
どろかせました。16歳の若さ
でこの世を去り、夭折の少女
詩人と呼ばれています。松山
さんは、公子を顕彰すること
で地域を盛り上げようと、二
小元気会で顕彰事業を始めま
した。現在は独立して一般社
団法人となり、海達公子の顕
彰活動を行っています。

松山さんが地域づくりに取
り組み始めたのは、旧二小の
PTA会長を務めていた頃か
らです。先生と保護者との連
携をとりながら、プールに魚
を泳がせ子どもたちに釣りを
体験させるなど、いろんなイ
ベントに取り組んだ経験が生
きていると言います。

顕彰会では、市民や荒尾を
訪れた人に公子の詩を身近に

感じてほしいと、荒尾駅をは
じめ万田地区を中心に公子の
詩碑の設置を進めています。
そして、詩碑を巡る「海達公
子文学散歩道ウォーキング」
などを毎年開催しています。

「イベントは続けていくこ
とが大切なんです。もしイベ
ントや顕彰会がなくなると
しても、詩碑は残ります。詩
碑があればまた地域活性化の
財産になるはずですよ」と、未
永く顕彰ができるように松山
さんは考えています。

「4年後は海達公子の生誕
100年です。それまでに詩
碑を30基設置して盛大にイベ
ントを行いたいです」と、目
を輝かせる松山さん。公子と
同じ時代に活躍した詩人・金
子みすゞとの共演や、夕日・
干潟・桜と一緒に楽しめる散
歩道、スイセンが香る歩道な
ど、次々とアイデアを膨ら
ませています。

「全国から訪れてもらい、
荒尾の活気につなげたいで
す」この顕彰活動が実り、
荒尾が叙情豊かな詩を楽しむ
人でにぎわう日も、きっとそ
う遠くありません。